

不便益のまとめ

京都先端科学大学 川上浩司

不便なことは避けてばかりではなくて、不便だからこそ得られる益（不便益）があることを知っているの良いですよ、という連載をしてきました。今回は2年間の最終回です。先月までは、個別の事例を取り上げて考察を加えるというスタイルでした。最終回ぐらいいは、個別ではなく、全体をまとめるような話をします。

まず、「不便」とは、どういうことでしょう？これについて、不便益の研究者達は二派に分かれます。この連載を書いている私は、「手間がかかるか、頭を使わねばならないこと」を不便なことと考えています。当たらずも遠からずだと思いませんか？ただ、他の研究者の中には、「いや、それに『いやだな』』という感情が伴わねばならない」という人も多いです。

私の不便の定義は、客観的現象として観測できますから、工学系の学者好みです。純粹客観不便とでも名づけましょうか。一方で『いやだな』』という感情が伴わねばならないとする定義は、主観付帯不便とでも呼びましょう。どちらも一長一短がありますが、この連載では一貫して純粹客観不便をベースにして話を進めてきました。

純粹客観不便をベースにすると、根っこのところで、「自由とはなんだ」という、なんだか宗教的な、哲学的な匂いのある問いとつながります。さて、皆さんは「あなたは自由です」と言われた時、次のどちらの反応をしますか？

・ やったー、何をしてもいいんだ！
・ やったー、何もしなくていいんだ！
どちらがまず頭に浮かぶかは、生まれた時代に依るといふ説もあります。純粹客観不便をベースにすると、不便益は前者の「何をしてもいいんだ」と思った人向けだと思っています。「何もしなくてよい、何をしても無駄だ」と言われることより、自分の手間をかけ、自分の頭で考えられることが嬉しくて、そこから獲られる「益」を感じられる人です。

ここで、さっきの話の「自由」と、いわゆる不便／便利との関係を考えてみましょう。図に示す直線が

助けになります。直

線の左端を「不便の極み」としましょう。

二つの方法を比べて

どちらが不便かといえば、より手間がか

かり頭を使わねばな

らない方だ、という

のが純粹客観不便の定義です。そうす

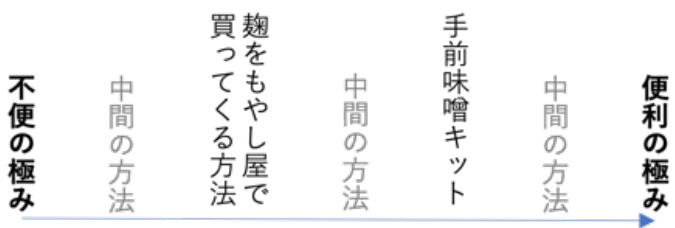
と、その極みは「どう

がんばってもダメ」

な状況です。

逆に、直線の右端を

「便利の極み」とすると、そこは「手間がまったくかからず頭も使わない」状態として良いでしょう。自由と聞いて「何もしなくていいんだ！」と思う人が希求する状態です。ここで一つ、自由と不便／便利が繋がりました。そして、左に行くにつれて手間をかけ得る余地が増えてきます。これが、



程度の差はあれ、「やってもいいんだ！」
と思う人が喜ぶところだ。

では、この直線上にいくつかの事例を当てはめてみます。まずは味噌作り。我が家ではいつもは味噌をスーパーで買ってきていました。ある年に家内が「手前味噌キット」を買ってきて、自宅で作り始めました。自分で作る手間は楽しいものでした。手間の楽しさは不利益です。

ところが家内は「不便？キットなの？！」というのです。確かに、キットというと便利なものですが、現代では麴を売る「もやし屋」など近所にはありません。ですから、味噌を作るのに必要な材料が一揃えになつて届くキットは、現代ならではの便利ですが、味噌を自分で作るという不利益体験をさせてくれる便利グッズの一つが手前味噌キット、ということになります。

今では不可能になつたという意味で、材料を全て自給自足で調達する方法が直線の左端、「つくる」作業がゼロであるスーパー購入方法が右端にプロットされると、手前味噌キットはその間に位置します。

このような感じで、色々なタスクに対するメソッドを、不便な順に図中の直線上にプロットできます。そして、右端と左端以外は、程度の差はあれ「不利益を得るための便利」を提供してくれます。左端はいくら手間をかけてもダメなので、不便の甲斐（益）がありません。右端は、手間をかけさせてくれません。その中間に、いい具合に不利益を提供してくれるものがあります。

他にも、料理をするというタスクを考えてみると、左から順に自給自足・スーパーで食材を購入・食材のキット購入・カット済み食材のキット購入・調理済みで後は混ぜるだけのキット購入・CookDoのラスト一手間キット購入・チンするだけを購入・ケータリング、などのメソッドが直線上に並びます。他のメソッドも、いくつかの組み合わせも、この直線上のどこかに乗るでしょう。そして、人により状況により、料理にかける手前から得られる益のバリエーションが楽しめます。

「不利益を得るための便利」と言えば、山登りの装備もそうです。頂上に行くだけなら他に便利な手段があつたとしても、あえて不便な登頂を楽しむ（益を得る）ためには、安全装備という便利が必要です。

キャンプもそうです。便利の極みの「どこにも行かないこと」と不便の極みの「キャンプできないこと」の間で不利益を得るためには、キャンプギアという便利が必要です。

車の変速もそうです。図の右端に位置するオートマよりマニュアルトランスミッションが不便です。そして、マニュアルという不便から益が得るのには、サクサクとドライバの指示通りに動く装置という便利が必要です。

2年間の連載で紹介してきた事例はいずれも、「不便の益を得るための便利」を提供してくれるものでした。